

A photograph of a narrow dirt path winding through a dense bamboo forest. Sunlight filters through the misty air, creating a serene and ethereal atmosphere. The bamboo stalks are tall and slender, with lush green leaves.

放置竹林の再生と竹炭による 地域循環の創出

地域を悩ませていた放置竹林を、次世代へつなぐ大切な資源へ。
伐採から竹炭への加工まで、地域とともに歩む持続可能な循環型の環境保全の取り組みです。

環境保全と資源循環

SDGsへの貢献

地域課題の解決



このご縁に
ありがとうございます
株式会社遠州建設



背景：放置竹林が抱える地域課題

高齢化と担い手不足により、全国各地で竹林の管理が困難になっています。
放置された竹林は急速に拡大し、地域社会に深刻な懸念をもたらしています。

土砂災害のリスク

竹の根は浅く、豪雨時に表層崩壊を引き起こしやすい構造です。
斜面の竹林は、地域住民の安全を守る観点から早急な対応が求められています。

農地・宅地への侵食

竹の地下茎の拡大により、地域の暮らしの基盤である農地や宅地が圧迫されています。
土地本来の健全な姿を取り戻すための取り組みが必要です。

景観・環境の保全

鬱蒼とした放置竹林は地域景観を損ない、生物多様性も低下させます。
行政や地主の方々と連携し、持続可能な地域環境の再生を目指しています。

事業コンセプト



「廃棄物」ではなく 「地域資源」として循環させる

伐採した竹を処分するのではなく、竹炭という価値あるものへと転換します。
地域が抱える放置竹林の課題を、環境を守りながら循環させる仕組みに変えることで、
持続可能な地域運営を実現します。
行政や地主の皆様と連携し、地域環境の保全と課題解決に貢献する取り組みです。

三方よし：すべてのステークホルダーと共に歩む

この事業モデルは、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人の経営哲学「三方よし」の精神に基づき、地域課題の解決を核としています。

放置竹林問題という喫緊の課題に対し、地域住民の安全と環境保全、行政の政策目標の実現、そして私たちの持続可能な活動を通じた社会貢献が、互いに支え合い調和する関係を築いてまいります。

事業概要

本事業は「放置竹林の整備」を主軸に、伐採した竹を資源化する取り組みを組み合わせ、地域課題解決型の循環モデルです。

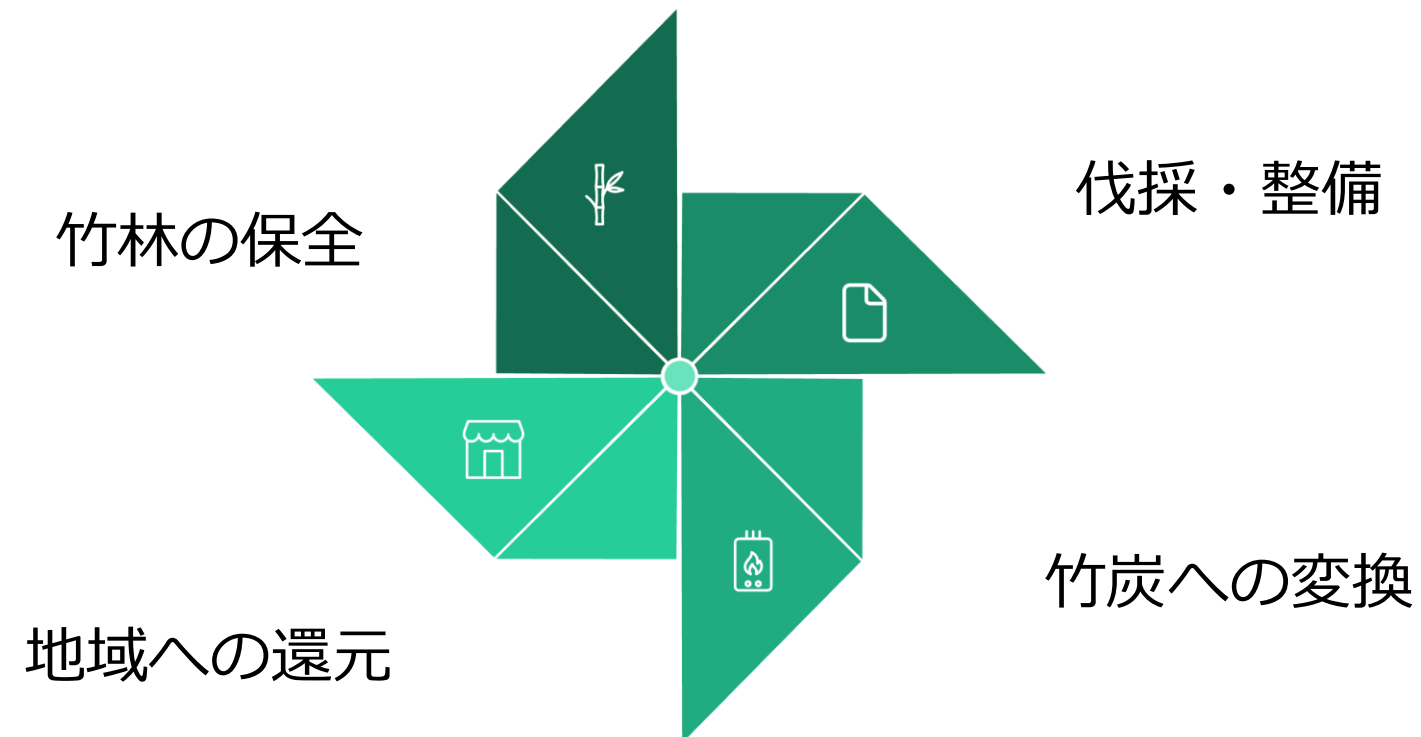
① 放置竹林の整備と環境保全

- 地域住民や行政と連携し、放置竹林の適正な整備を推進
- 専門的な知見に基づき、安全で丁寧な現場管理を実施
- 持続可能な環境保全のため、継続的な地域管理体制を構築
- 伐採後の竹材を余すことなく活用し、廃棄物ゼロの循環を追求

② 竹資源の利活用と社会貢献

- 伐採した竹を竹炭として再生し、自然の恵みを社会へ還元
- 農業の活性化や地域の環境改善に向けた活用を促進
- 環境負荷低減に資する資源として、地域社会での循環を展開
- 環境保全という共通目標のもと、多角的な連携を推進

資源循環の流れ



「伐採・整備・環境活用」までを地域と一体となって取り組むことで、資源の無駄を省き、地域の環境を守り育てる循環の仕組みを構築します。

強み：建設業として地域のために できること

本事業は、建設業として長年培ってきた有形・無形の技術や経験を活かし、地域課題の解決と竹林の再生に真摯に取り組む活動です。



重機・設備を活かした環境整備

自社保有する重機を活用し、放置竹林の適切な整備を迅速に実施。
地域の自然環境を守り、安全な景観を取り戻すために役立てます。



熟練の技術と現場管理

安全管理に精通した専門スタッフが、竹林という特殊な環境においても、
地域の方々と連携しながら着実かつ安全に作業を進めます。



一貫通貫による地域還元

伐採から資源活用までを一貫して行うことで、環境負荷を低減。
資源を地域内で循環させ、持続可能なまちづくりに貢献します。



法令遵守と安全・環境への配慮

竹林の適切な管理および竹資源の有効活用を通じて、地域の環境課題解決に取り組むにあたり、関連法規の遵守と安全な運営を最優先とします。地域の皆様が安心して暮らせる環境を守るため、関係法令および条例に基づき、行政と緊密に連携しながら事業を推進します。

廃棄物処理法への適応

伐採された竹材の取り扱いに際しては、廃棄物処理法等の趣旨に則り、資源を大切に活用しながら適正な処理を徹底します。常に法令を確認し、透明性のある管理を行います。

野焼き禁止条例の遵守

竹炭製造の焼成工程では、地域の生活環境を守る観点から各自治体の野焼き禁止条例を尊重します。環境負荷の少ない適切な炭化炉や窯設備を選定し、安全な運用を徹底します。

地域環境条例との調和

作業を行う各地域の環境関連条例を事前に深く調査し、騒音や排煙等においても周辺環境へ配慮し現場運営を行います。地域社会との調和を大切にします。

- ❑ 事業開始前に対象地域の行政窓口と丁寧に事前協議を行い、地域社会の合意と安心を得た上で、適正に事業を進行することを基本手順といたします。

将来展開：持続可能な地域課題解決へ

地域に根ざした竹林整備から出発し、段階的に活動の輪と社会的な価値を広げていきます。



フェーズ1：地域との信頼構築

地主様や行政からの相談に応え、竹林の適正な管理と活用を通じて、身近な環境保全の実績を重ねます。



フェーズ2：継続的な環境保全の仕組みづくり

地域での定期的な整備体制を整え、竹林の荒廃を未然に防ぐ持続可能な管理モデルとして定着させます。



フェーズ3：地域資源の価値創造と還元

竹炭を環境配慮型の資材へ応用し、地域の循環型社会への寄与を目指します。
建設の知見を活かし、社会課題解決の幅を広げます。



このご縁に
株式会社遠州建設

SDGs・行政施策との親和性

本事業は複数のSDGs目標と直接連動しており、自治体との連携による環境保全活動や、地域環境の持続的なブランディングとの相乗効果が期待できます。



SDGs 15：陸の豊かさを守ろう

放置竹林整備による生態系の回復と、在来植生の保全を通じて、地域の豊かな自然環境を次世代へ引き継ぎます。



SDGs 11：住み続けられるまちづくり

土砂災害リスクの低減と景観改善により、地域の皆様が安全・安心に暮らせる住環境の形成に寄与します。



SDGs 12：つくる責任つかう責任

廃棄物ゼロを目指した竹の完全資源化により、地域資源を大切にする循環型社会の実践モデルを構築します。



SDGs 9：産業と技術革新の基盤

建設技術と環境保全の知見を融合し、持続可能な地域社会のあり方を提示する新たな取り組みに挑戦します。



まとめ：地域課題を地域資源へ

放置竹林という「誰もが困っているが手が出せない地域課題」に、建設業のノウハウを活かして真摯に向き合う取り組みです。

→ 地域への価値還元

土砂災害リスク低減・農地保護・景観改善を通じ、地主・自治体・住民の皆様に安心して豊かな住環境をお届けします。

→ 持続可能な地域運営

竹の循環利用と環境保全を組み合わせ、次世代に自然をつなぐ安定した取り組みを構築します。

→ 地域との連携と広がり

行政や地域コミュニティとの協働を通じ、この環境保全の輪を他地域へも広げ、社会課題解決のモデルを目指します。

□ 地域課題の解決をご検討の地主様・自治体担当者様・連携事業者様は、ぜひお気軽にご相談ください。現地調査・社会課題解決のご提案を無料で承ります。